

## 2016 マルメ研修感想文

福井雄二（三菱東京 UFJ 銀行健康センター）

6月27日（月）から7月1日（金）の日程でスウェーデン・マルメ大学で開催された研修会に参加させていただきました。以下に受講した感想を述べさせていただきます。

冒頭、研修の概要の説明の後にマルメ大学歯学部長ら講師陣から、歯学部の成り立ちや重視している教育手法についてお話いただきました。こうしたバックグラウンドを知り研修を受けることで、より深い理解につながったと思います。

その後続く講義の臨床的な内容としては、特にリスクアセスメントの重要性、う蝕の進行速度、深部う蝕のマネジメント、酸蝕症について、社会的な内容としては人頭払いシステムについてのお話が印象的でした。

まず適切なリスクアセスメントによる疾患の予測なしに、病変が生じていない状態のハイリスク者を割り出すことは不可能であり、一次予防は成立しないということを再認識しました。健康を守るためには、疾患の結果としての症状を見るだけでなく、もう一歩先んじた対応が必要だと思えます。

う蝕の進行速度については、同一口腔内においても部位によって進行速度が異なることや、こういった条件下で進行が早くなるかを知ることができました。深部う蝕のマネジメントではう蝕の病態を整理した上で、動画でステップワイズエクスカベーションの手技を教えていただき、大変ためになりました。酸蝕症の講義では、飲食の嗜好や関連する全身疾患をよく理解した上で治療や指導を行うことの重要性が理解できました。患者指導についても、一方的に情報を与えるだけではなく、しっかりと理解してもらうことが重要であることが強調されていたように思います。ただし健康行動が改善されないのは知識不足が原因ではなく、他の要素が関与している場合もある（歯磨きをした方が良い、フロスを使った方が良い、といったことを知らないわけではなく、知っているけれどもできない）こと、動機付け強化療法の考えに基づいた介入などを戦略的に選択する必要がある場面があることを知り、普段の患者指導を省みることができました。

人頭払い制度についての講義では、R2というシステムによって患者のリスクが評価され、その分類に応じて患者支払う医療費が変わることを知りました。つまりスウェーデンでは、人頭払いシステムを選択した場合、健康な人は医療にかかる費用を少なく抑えることができ、もちろんその費用を予防処置に充てることができます。これは画期的なことだと感じました。近年日本国内でも、健康な人と医療費を多く使う人が同じだけの健康保険料を支払うことへの不公平感や、健康へのインセンティブ付与が注目されています。社会システムをそのまま取り入れることは不可能としても、大変参考になると思います。

講師陣は皆さん大変フレンドリーで、講義もわかりやすく整理されていました。特にダン・エリクソン教授は5日の期間中ずっと会場にいらしていただき、何時も質問に気さくに応じていただきました。現役の教授から、このような篤い対応をしていただける機会には他にあるのだろうかと感じました。また、質の高い通訳がなされているおかげで、英語では曖昧にしか理解できないことも、深く理解することができました。

内容が盛り沢山であったためまだ復習が追いついていませんが、研修で学んだ哲学を今後の仕事にどう活かすかをしっかりと考え、少しずつでも行動に移したいと思えます。この素晴らしい研修がこれからも長く続くことを願います。